

記入日：令和2年10月30日（更新）

<b>所在地（都道府県/市町村）：</b> 石川県能登町	
<b>法人名：</b> 社会福祉法人 佛子園	
<b>施設・事業所名：</b> 日本海俱楽部	<b>担当者名：</b> 竹中 誠
<b>事業種類：</b> 施設入所、生活介護、就労継続支援A型、就労継続支援B型等	
<b>主たる障害：</b> 知的障害、精神障害	<b>令和2年3月末現在定員：</b> 20人
<b>TEL：</b> 0768-72-8181	<b>FAX：</b> 0768-72-8282
	<b>E-mail：</b> n-club@bussien.com

### ① 令和元年度までの主な取り組み内容

ビール製造、販売、レストラン、弁当/配食事業、農業等を取組み日本海俱楽部拠点で約1億3千万円の生産活動収入がある。

### ② 施設・事業所における新型コロナウイルスの影響

ビール製造、販売については、取引先の飲食店の営業自粛に伴い、昨年比の売上40%となっている。また、レストランや弁当事業は観光客入り数の激減にともない売上50%となっており、生産活動収入だけでなく作業量も低下している。

### ③ コロナ下において新たに始められた取り組みの内容

#### 事例タイトル：移動スーパーにおける新たなコミュニティづくり

##### 取り組み内容：

高齢化率が47.3%と非常に高い石川県能登地方。交通機関の衰退によって、日々の買い物に困難を感じている高齢者も多い。さらに最近はコロナ禍による影響もあり、なかなか店舗に行く足も伸びず、買い物への困りごとはさらに増えていくと考えられる。

そんな中、日本海俱楽部では能登町からの助成金を受け、日本海俱楽部ザ・トランسفォーマー（移動スーパー）を9月下旬より開始する。

肉や魚、惣菜、地元の野菜などの食料品の他、生活に必要な日用品も合わせ、計700品目の商品を専用車に乗せて各地域を巡回する。

「福福連携」として各福祉施設と連携し、能登町内の他障害者就労施設で製作しているパンやお菓子も販売する。高齢化及びコロナ禍で発生した奥能登地域の困りごとを減らしていくよう取り組んでいく。

また日本海俱楽部で働いている障害のある人たちにも売り子として活躍してもらうことで、地域の中に様々な関りが生まれ、地域に活気をもたらしていきたい。

“物が集まる、人が集まる、地域への想いが集まる”その思いが地域の困りごとや楽しみを発信できるように姿を変え（トランスフォームして）、地域を元気にしていく。

#### ④ ③の取り組みを始めたきっかけ・工夫した点

コロナ禍の行動制限により地域の高齢者の皆さんの中の移動、買い物の困りごとが更に顕在化した。地域の課題解決を図るために町に働き掛けて「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」に対して「移動スーパー等による地域の支援生活支援事業」プログラムを提案。能登町議会で採択され9月下旬より実施。自事業所内でのコロナ感染拡大予防を図りつつ、地域の課題解決を障がい者就労事業として取り組む。新たな福連携の確立を目指す。

#### ⑤ 取り組みの効果（売上や顧客、利用者、職員、地域等における効果）

地域の買い物、移動の困りごとの高齢者の地域生活の利便性向上を目指す。また、新たなコミュニティ確立を目指す。また、就労支援事業にすることで障がいのある方々が「支えられる側から→支える側へ」地域の人的資源として活躍の場を広げる

#### ⑥ ③の取り組みを開始するにあたり新たに導入した生産設備・備品（経費・財源）等

「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を財源に能登町に提案。その財源を基に「能登町障がい者施設販路開拓等支援事業補助金」として移動販売車の生産設備購入費の補助を受ける。

#### ⑦ 今後の課題・展望

移動スーパーによる新たなコミュニティを創ることで新たな地域課題を障がいのある方々と地域住民がともに解決していくそんな事業となっていくことを期待している。



▲高齢者配食事業の就労事業メンバー



▲販売の様子

